

た ち ば な 新 聞



水谷E 寶清寺

橘墓苑 水谷蓮堂 睡蓮庵 たちばな会館

秋のお彼岸

九月十九日(水)から二十五日(火) 秋のお彼岸にはお塔婆を上げ、ご家族で墓参されるように致しましょう。

最近「今を大切に生きたい。人生を自分なりに完成させたい。」と考える人が増えているようです。「自分の残りの人生をどう生きれば良いか。自分らしい終末を迎えるために何をすれば良いか。」を考える事は、大変難しい問題です。一方、死に関する問題を家族で話し合うことはタブー視される傾向があります。その結果、昔から葬儀の度に、「突然親が亡くなり、お寺の事は全て親がやっていたので何にも分からず困りました。」という声が多く聞かれます。また、葬儀に関しても情報が豊富過ぎて、自分に当てはめて、どう判断したら良いか迷うとも聞きます。そこで今回はお檀家さんからの質問が多かった、「故人らしい葬儀とは何か、喪主としてどう対応すれば良いか」を、「Q&A」で紹介致します。

日蓮聖人 遺訓 (三十一)

「教主釈尊の愛子なり」(法華取要抄)

全ての生命は親の存在があつて生まれます。日蓮聖人はお釈迦様と全ての人々は親子であり、我々は久遠の命を授かった仏の子だということです。国や世間の乱れを法華経の信仰によってお釈迦様との親子の関係を取り戻し、仏子による安穩な社会を作り上げようとしたのです。

仏事Q&A7

Q 「身近な人が亡くなり、喪主となったとき、どう対応すれば良いですか。喪主が行うべき事柄について教えてください。」
A ある日大切な人が亡くなって、いざと言うときに困らないために知っておくことは必要です。

喪主の重要な仕事の一つが、葬儀の形式を決めることです。「望ましいのは故人らしい葬儀とは何かを考え、それに沿って行うことです。故人の人格や心情が反映された葬儀なら故人も浮かばれ、列席者も故人を深く偲ぶことができます。」
具体的な喪主の仕事内容

① 臨終 臨終に立ち会った人全員で末期の水を取る。病院で亡くなると死後の処置(清拭と衛生処理)を看護師が行う。処置後遺体は病院内の霊安室に安置される。

② 遺族の打ち合わせ 喪主を決める。故人の遺志・予算などをもとに葬儀内容を遺族で話し合う。菩提寺に連絡して指示を仰ぎ、その上で葬儀社と相談する。火葬場の空き状況などを考慮しつつ、通夜・葬儀の日程を決める。その際葬儀社からの提出された見積書内容を確認することが大切です。

住職ひと口法話 (第三十一話)

最近、世の中がおかしいと感じている人は多いと思う。何故そうなったのか。それは二十世紀後半の経済中心の資本主義社会になったことと原因の一つがあると思われる。その結果、高度経済成長を遂げたことが出来たが、反面、人間関係が主として利害計算の関係と化し、本来の人間性が失われて来た。スペインの画家で版画家のゴヤは風刺画が得意で、「五月三日の処刑」と題する銅板画で、人間が作り出した「経済」に振り回され「人間性」を喪失する姿を風刺している。ゴヤの銅板画には、まさに、絞首刑に遭ったばかりの金歯をはめた男が描かれている。その側に、男の死体から顔を背けている女性が立ち、男のはめている金歯を取ろうとしている様子が表現されている。今の世の中、自分の利益になるものには積極的に関わり、自分に不利なことに無関心である傾向が強いことを思うと見事な風刺である。最近の、大津のいじめの問題・東京電力の電気料金値上げの問題・政治の震災復興と消費税値上げの問題など、生徒不在・消費

者不在・国民不在など、「人間不在の論議」を重ねているようである。人間は何時か「人を思いやる気持ち」を忘れてしまったのだろうか。孔子は生涯守るべき事として、「恕(思いやり)」が大切と説き、日蓮聖人は我々は「教主釈尊の愛子」であるから、親の愛情を受けた仏子として、釈迦から受けた親の愛情を以て、安穩な社会を作り上げる事を目指して布教された。我々は起こった問題について他人事ではなく、自分の問題として情を持った解決を図るよう掛けたものである。

この間、まず菩提寺に連絡し、その後、葬儀社に連絡して、自宅あるいは斎場に遺体の搬送を依頼する。(お寺に葬儀社を紹介してもらっても構いません。) 病院で死亡診断書を受け取り、退院の手続きをする。

③ 遺体の安置 遺体は納棺までの間、頭は北向きに布団に寝かせて安置する。枕元には燭台や花立を置き、水・線香・枕団子・枕飯などを供え、枕飾りをする。住職が到着したら、故人の枕元に「枕経」を上げてもらう。その後、住職に葬儀の内容や戒名・お布施について相談する。(最近枕経を行わない場合も多い。その場合は別途相談する必要がある。)

④ 葬儀の案内 死亡の通知は電話連絡が早くて確実。特に親しい人への連絡は喪主が行い、故人の知人や友人への連絡は世話役をお願いして任せるとスムーズに運ぶ。連絡内容は故人の名前・死亡日時・葬儀、葬儀の日時と場所、形式など。参列者からの香典や供物を辞退する場合はその旨も伝える。

⑤ 納棺 故人の身体をふき清め、経帷子と呼ばれる死装束を着せて棺に収める。最近納棺師が納める事が多いが、本来は遺族など近親者の役目で、一部だけでも手伝うと家族の手で供養したとの実感が強まる。

⑥ 通夜 住職の到着後、喪主は出向いて挨拶をする。喪主と遺族は喪服に着替えて、十五分前までに着席する。通夜の焼香は喪主・遺族・親族・弔問客の順に行う。通夜の途中で喪主の挨拶をする場合がある。そうではない場合は、通夜振る舞いの席で弔問への礼を述べる。通夜が全て終了した後、遺体に付き添い一晩を過ごす。

⑦ 葬儀・告別式 住職の説経で葬送儀式(説経・授戒)が始まる。弔辞がある場合は弔辞の後、焼香と続く(焼香の順番は通夜と同じ)。葬儀終了後、お花などを柩に入れ、故人との最後のお別れをする。ここで喪主の挨拶。葬儀に足を運んで下さった事への御礼に加え、故人の人格や亡くなったときの状況を簡潔に説明することもある。柩を霊柩車に運び火葬場へ向けて出棺となる。

⑧ 火葬 焼香し、火葬炉へ。火葬中は控室で待機し、火葬が済むまでの一・二時間、茶菓やお弁当を食べる。火葬後の収骨は喪主から関係の深い順に二人一組で箸を使い、足・腕・腰・背・のど仏・頭などの順に骨壺に収める。「二人一組で骨を拾うのは故人をこの世からあの世に橋(箸)渡しする意味合いがある。」

⑨ 初七日法要 遺骨・位牌・遺影を安置し初七日法要を行う(最近葬儀に引き続き行う場合も多い)。その後、精進落としの席を設け、葬儀が滞りなく行われたことに対して礼を述べ、この場を利用して、親族関係者と四十九日忌の法要や納骨の日取りを相談すると良い。住職へのお布施は通夜の前か葬儀の後に渡すのが一般的です。

⑩ 葬儀後の手続き 各種保険・年金・税金の手続き、香典返し・忌明けの報告の手配などがある。

行事案内

「たちばな」新聞は、季刊紙として、一・三・七・九月の年四回発行しております。この発行月には、正月、春彼岸、お盆、秋彼岸と密接に関連した記事が掲載される都合上、この時期になっております。この時期以外にも、ご報告しなければならぬ事柄も多くなり、季節感が無い内容や、だいたい先と思われるご連絡を書くことも御座います。

●正月
【日蓮宗御宝鑑頒布】一年間の「暦」をお渡ししております。
「暦」を見れば、本年の星まわり、吉凶や行動に注意が必要な方角や日時等が判るものです。

●三月
【春彼岸会】彼岸には塔婆供養を付いたします。塔婆の申し込みは一月発行の「たちばな」新聞郵送時に申込まれるので、その葉書に必要事項をご記入になり、投函してください。

●七月
【盂蘭盆会(お盆)】お盆には、七月盆と八月盆がございます。七月盆は都会に在住の方が多く、農村部の方は八月盆にされる方が多いようです。

●九月
【秋彼岸会】暑さ、寒さも彼岸までと言います。この彼岸は日本独自の供養会であり、他の仏教国では見られない行事だそうです。

●十月
【お会式】お会式は、日蓮聖人が遷化(御入滅)された日です。この日は、日蓮聖人の徳を偲び、報恩感謝を命をかけて、衆生の救済に尽力された日蓮聖人に感謝し、また我々は後世に伝えて行かなければならない気持ちを確認する日とも言われています。

宝清寺の行事予定は最下段に日程を記載し、それ以外の行事や連絡を、この場をかりてご報告申し上げます。

●二月三日
【除厄・星祭・交通安全】本年が厄年や星まわりの悪い方、交通安全礼を希望される方は、この時期にお申し出ください。二月三日に祈禱します。遅くとも一月下旬までにお申し出ください。お渡しは二月三日以降になります。ご希望の方は郵送いたします。

●四月八日
【灌仏会(花まつり)】「花まつり」はお釈迦様の誕生を祝う日です。御来寺の方には、甘茶をふるまっております。また、オリエンテンプリングも開催しております。この催しは、宝清寺と近隣の寺院を周りスタンプを集め、最後にゴール寺に行くこと、記念品がもらえる行事です。

●七月
【盂蘭盆会(お盆)】お盆には、七月盆と八月盆がございます。七月盆は都会に在住の方が多く、農村部の方は八月盆にされる方が多いようです。

●九月
【秋彼岸会】暑さ、寒さも彼岸までと言います。この彼岸は日本独自の供養会であり、他の仏教国では見られない行事だそうです。

●十月
【お会式】お会式は、日蓮聖人が遷化(御入滅)された日です。この日は、日蓮聖人の徳を偲び、報恩感謝を命をかけて、衆生の救済に尽力された日蓮聖人に感謝し、また我々は後世に伝えて行かなければならない気持ちを確認する日とも言われています。

健康の味

夏の初めに、赤紫蘇を頂いた。紫蘇ジュースにするといと勧められ作ってみた。
ワインレッドの紫蘇ジュースは見た目に涼しげで、味も申し分なく、私の家族は全員お気に入り飲み物です。

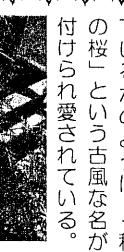
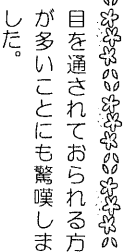
【材料】
・赤紫蘇 葉300g
・砂糖 500g

【作り方】
大きめの鍋に水2リットルを入れ、赤紫蘇の葉を水のうちから鍋に入れ、沸騰してきたら、火を弱め、五分から十分ほどアクを取りながらゆでる。紫蘇の葉が赤から青に変わります。
ゆで終わったら砂糖と酢を入れる。酢の分量は好みで変えてもよい。飲む時は、水や水で薄めてお召し上がり下さい。

詳しくは宝清寺ホームページを御覧ください。
●七月
【盂蘭盆会(お盆)】お盆には、七月盆と八月盆がございます。七月盆は都会に在住の方が多く、農村部の方は八月盆にされる方が多いようです。

●九月
【秋彼岸会】暑さ、寒さも彼岸までと言います。この彼岸は日本独自の供養会であり、他の仏教国では見られない行事だそうです。

●十月
【お会式】お会式は、日蓮聖人が遷化(御入滅)された日です。この日は、日蓮聖人の徳を偲び、報恩感謝を命をかけて、衆生の救済に尽力された日蓮聖人に感謝し、また我々は後世に伝えて行かなければならない気持ちを確認する日とも言われています。



秋桜(コスモス)と言う名を聞いて、山口百恵を連想するのは、私だけではないと思う。「うす紅の秋桜が秋の日の...」から始まる歌詞は、さだまさし氏によるもので、日本の秋を描く写豊かに表現している。
また、長野県佐久市には、約9kmにもおよぶ、通称「コスモス街道」があり、天を貫くような秋空のもと、そよ風に揺れるコスモスが、通りを行き交う人々の目を和ませてくれる。
コスモスは、メキシコ原産の植物で、日本には明治の中葉に植樹された外来種である。そのため、和歌などには登場しないが、日本人の心に適合しているかのようには、「秋の桜」という古風な名が付けれ愛されている。

御祈願・御供養
交商 通 厄位 祈
開安星除方虫商交
運産 厄位 祈
守守祭願除封願全

宝清寺では、花祭り(灌仏会)、お盆(盂蘭盆会)の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養、祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

発行：日蓮宗水谷山宝清寺
住所：東京都あきる野市小川一〇一
電話：〇四二五五八二二六三
FAX：〇四二五五八二二九三
インターネットホームページ
Eメールアドレス
housein@cauone.net